

2018 年 5 月 14 日

人間工学に基づいた新操作部と軽量化を実現した 耳鼻咽喉ビデオスコープ 2 機種を発売

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、人間工学に基づいた新操作部と軽量化を実現した耳鼻咽喉ビデオスコープ 2 機種を国内で 5 月下旬から、欧州で 6 月上旬から発売を開始し、全世界で順次発売します。

耳鼻咽喉ビデオスコープは、主に鼻から挿入し、咽頭や喉頭の観察・処置を行う際に使います。今回発売する 2 機種は観察に特化した内視鏡で、「ENF-VH2」はハイビジョン対応により高精細な映像を実現し、「ENF-V4」は先端外径 2.6mm と細径化を追求しています。

本機種より人間工学に基づいた新操作部を採用したことで、内視鏡検査時の操作性・挿入性の向上に貢献します。また、操作部を従来比^{※1}約 3 割軽量化し、医師のより負担の少ない検査に寄与します。さらに、当社独自の技術である NBI^{※2} 観察により、咽喉頭がんなどの病変の早期発見をサポートします。従来機種の優れたスペックを継承しながら、人間工学に基づいた新操作部や軽量化を実現し、医師のさらなる使いやすさを追求しました。

なお、本製品は 5 月 30 日(水)から 6 月 2 日(土)まで横浜で開催される、第 119 回日本耳鼻咽喉科学会総会(会長:東京大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授 山嵜 達也教授)に出展します。

※1 ENF-VH、ENF-V3

※2 狭帯域光観察(Narrow Band Imaging=NBI)。粘膜表面の微細な血管やその模様を観察しやすくするために、血液中のヘモグロビンに吸収されやすい 2 つの狭帯域の光を照射することで、組織が強調表示される観察方法

●発売の概要(日本・欧州)

販売名	発売予定日
耳鼻咽喉ビデオスコープ OLYMPUS ENF-VH2	2018 年 5 月下旬(日本)
耳鼻咽喉ビデオスコープ OLYMPUS ENF-V4	2018 年 6 月上旬(欧州)

●主な特長

1. 人間工学に基づいた新操作部を採用し、内視鏡検査時の操作性・挿入性の向上を実現
2. 操作部を従来比^{※1}約 3 割軽量化し、より負担の少ない検査に寄与
3. 当社独自の技術である NBI^{※2} 観察により、咽喉頭がんなどの病変の早期発見をサポート



耳鼻咽喉ビデオスコープ「ENF-VH2」



耳鼻咽喉ビデオスコープ「ENF-V4」

製造販売元はオリンパスメディカルシステムズ(株)です。

●開発の背景

耳鼻咽喉科では、患者さんによって内視鏡を使い分けています。一般的には、咽喉頭がんなどの検査時には高精細な映像を見るためにハイビジョン対応の内視鏡、鼻腔の狭い患者さんには細径化を追求した内視鏡を用います。従来機種の基本性能に加え、操作性のさらなる向上が求められていました。そのため、内視鏡操作をサポートする新操作部の採用や、さらなる軽量化を実現しました。

●主な特長の詳細

1. 人間工学に基づいた新操作部を採用し、内視鏡検査時の操作性・挿入性の向上を実現

人間工学に基づいた操作部を実現し、医師が把持した際、先端部が患者さんの方向により直線的に向くようになりました。また、スコープスイッチの位置改良により、片手操作を可能にしています。これにより、内視鏡の操作性・挿入性の向上に貢献します。



片手操作を実現



人間工学に基づいた新操作部

2. 操作部を従来比^{※1}約3割軽量化し、より負担の少ない検査に寄与

操作部の形状の変化などにより、操作部を従来比^{※1}約3割軽量化しました。これにより、より負担の少ない内視鏡検査をサポートします。

3. 当社独自の技術である NBI^{※2} 観察により、咽喉頭がんなどの病変の早期発見をサポート

当社の独自技術である NBI^{※2} 観察を従来機種に引き続き搭載しています。これにより、粘膜表面上の血管と組織のより微細な観察を実現し、咽喉頭がんなどの病変の早期発見をサポートします。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。